様式 C-7-2

# 自己評価報告書

平成２３年４月２０日現在

機関番号：１５４０１
研究種目：基盤研究（C）
研究期間：2008～2011
課題番号：２０５９２６２５
研究課題名（和文）　つどいの広場事業の評価と今後の役割に関する研究

研究課題名（英文）Research on evaluation of community space for mother and children, and a future role

研究代表者
川崎　裕美（KAWASAKI　HIROMI）
広島大学・大学院保健学研究科・教授
研究者番号：９０２８０１８０

研究分野：地域看護学
科研費の分科・細目：看護学・地域・老年看護学
キーワード：子育て支援，住民活動，発達支援

１．研究計画の概要

研究目的：つどいの広場事業の評価を行い、継続した母子への指導を実施するなかで、支援のための人材を継続的に確保するために、やりがいにつながる今後のあらたな役割について検討し、つどいの広場事業の目標について考察する

(1)つどいの広場事業の発展可能な機能の明確化として、継続して同一母子の発達の具体的効果測定を試みる。

(2)子育て支援者にとって魅力ある地域活動としての要素抽出として、支援者のやりがいや継続支援の要素、利用者の相互扶助モデルとなる可能性について、つどいの広場事業を有償、無償で支援する住民を対象に、調査を実施する。

２．研究の進捗状況

3 年目である平成 22 年度は、初回調査対象の増加と継続的データ収集を行っている。

１）利用者の調査

初めて広場事業を利用する 0～2 歳児とその母親を対象とし、NCAST（Nursing Child Assessment Satellite Training ）日本語版にあわせて、ビデオ撮影をおこない、データ収集を実施している。0 歳児を中心に調査、データ整理を終了したところである。引き続き 0 歳児の初回調査を実施しながら、半年経過した母子の 2 回目、3 回目調査を実施している。調査協力者の多くは、転入者であり、実家以外の支援のネットワークが必要であると考えられた。つどいの広場に集まる調査協力者の中にも、不安が大きい者が認められ、自由記載欄に日々の悩みが記載されていた。子ども達は、遠城寺発達検査によりおおむね月齢通りの発達と判断され、母子の関係性に問題のある親子は認められなかった。今後は継続調査を行うと同時に、蓄積された継続データの解析を行う予定である。

２）不安感調査結果の分析

初回協力者について、母親の育児不安感とネットワークの状況について、解析を行い、つどいの広場の利用状況と育児不安感、ネットワークの変化について、関連性を検討している。非常に強い不安を持ちながらつどいの広場事業に参加している母親は、多くの人的ネットワークを認識していたが、ネットワークの利用において主体的ではない特徴が示

唆された。つどいの広場事業では、母親をサポートするネットワークを広げるだけでなく、母親が主体的に子育てに関わるように指導を行う必要があると考えられた。

３．現在までの達成度

②おおむね順調に進展している。初回協力者も順調の増加し、継続協力も良好で順調に調査対象数を得ている。

４．今後の研究の推進方策

　今後は、同一母子の継続調査を進めるとともに、データベースの構築、分析を進める。

５．　代表的な研究成果

（研究代表者、研究分担者及び連携研究者には下線）

〔雑誌論文〕（計０　件）

〔学会発表〕（計４　件）

1. 森脇智子, 川崎裕美, 秀島千晴, 三国久美, 廣瀬たい子, 木浪智佳子, 澤田優美, 辻美穂, 寺本妙子, つどいの広場に参加する母親に対する JNCAST 利用の試み, 乳幼児保健学会, 2010 年 10 月 30 日, 札幌市

2. 秀島千晴, 川崎裕美, 森脇智子, 三国久美, 廣瀬たい子, 木浪智佳子, 澤田優美, 辻美穂, 寺本妙子, 「つどいの広場」に参加する母親の育児不安とネットワークに関する検討, 乳幼児保健学会, 2010 年 10 月 30 日, 札幌市

3. 秀島千晴, 川崎裕美, 森脇智子, 辻美穂, 玉井崇仁, 「つどいの広場」における支援の地域特性に関する検討―参加する母親の実態から―, 乳幼児保健学会, 2009 年 10 月 24 日, 広島市

4. 式部美紗代, 川崎裕美, 森脇智子, 玉井崇仁, 辻美穂, 秀島千晴, 地域での子育て支援を活発に行うために―乳幼児を育てる母親を支援する地域住民へのサポート―, 乳幼児保健学会, 2009 年 10 月 24 日, 広島市

〔その他〕